

柏の景気情報（平成19年12月分）

柏商工会議所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 振興課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成19年12月分）

○ 調査期間 : 平成19年12月21日 ~ 12月25日

○ 調査対象 : 柏市内112事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	112	79	70.5%
建設	20	14	70.0%
製造	26	19	73.1%
卸・小売	43	30	69.8%
サービス	24	16	69.6%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成19年12月の調査結果のポイント】

◀ 業況DI値はわずかながら好転し、マイナス20台に ▶

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27.8(前月水準▲31.7)となり、マイナス幅が△3.9ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲23.8)、サービス業▲31.2(同▲35.2)、卸小売業▲40.0(同▲40.7)である。特に、製造業はマイナス幅が△23.8ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲35.7(同▲23.5)である。

【建設業】では、「建築確認の遅れにより、更に着工の遅れがあり、それにより受注も減少」(タイル工事業)といった建築確認申請問題の影響の声や、「原油価格の値上がりはいろいろな面でマイナスの影響が出てくると思う」(一般工事業)、「材料・ガソリンなどの原価の高騰に伴って、自社単価を上げることはできないので厳しい状況である」(板金工事業)、「仕事があっても、原材料が高く採算が合わないことが多い」(電気工事業)といった仕入・コスト上昇による厳しい声が多く寄せられた。

【製造業】では、「ユニットハウスのレンタルは建築基準法改正の影響を受けている」(建設・建築用金属製品製造業)との建築確認申請問題の声や、「原油高騰により原材料全般の購入代金の上昇があり、収益に大きく影響を受けている」(有機化学工業製品製造業)、「燃料費の高騰が業績に大きく影響を与えている」(工業用ゴム製品製造業)といった仕入・コスト上昇による収益悪化の声が寄せられた。また、原油高騰に伴うエネルギー問題として、「プルサーマル計画準備、もんじゅ再始動などの動向が活発」(ロボット製造業)とのコメントも寄せられている。

【卸小売業】では、「SC内のパンの店オープンにより、新規のお客様が来店」(総合スーパー)、「猛烈に忙しい。人手不足」(学生衣料)との一部明るい声も寄せられているが、「移転(店舗面積の縮小)で売上が減少のため業績が悪化」(書籍小売)、「売上高は衣料品を中心に伸びをみせたが、前年は若干下回る推移となっている」(各種商品小売業)、「近くのスーパーが酒小売の免許を取得したため、酒類の落ち込みがある」(コンビニエンスストア)といった厳しい声が多く寄せられている。また、「賞与の時期だが、大きなピークも無く推移。平日と日祝祭日の売上高が平準化してきている」(各種商品小売業)との声や、「野菜・果実の入荷状況はやや減少、単価安の傾向により、年末年始の需要と供給のバランスや商戦にも不透明さを感じている」(青果卸売業)といった先行き不透明の声の他、「食品の表示や賞味期限の改ざんなどニュースとして取り上げられているが、昔から行われている行為だと思う」(食料卸売業)といった食品表示問題に関するコメントが寄せられている。

【サービス業】では、「クリスマスの予約が増え、22日土曜日のクリスマスディナーを予約される方が多い」(レストラン)といったクリスマス商戦好調の声も寄せられているが、「休日と平日の差が大きい」(そば店)、「宿泊は下期下降気味、宴会順調、会議・展示会不調」(ホテル)、「先行き見通しが立たない」(日本料理)との声の他、「真面目に商売されている方が小売店を中心に閉店される店が多くなっている」(居酒屋)といった厳しいコメントが寄せられている。

○仕入コスト上昇

「仕事があっても、原材料が高く採算が合わないことが多い」(電気工事業)、「ますます仕入価格は上昇」(燃料小売業)といった声が各業種から寄せられている。また、「仕入商品の値上げに伴う売価改定に多くの労力が費やされ、ついていけない」(塗装卸売業)、「軽油等の燃料費コストアップは、経営収支に大きくマイナス影響している。燃料費の高騰を運賃に転嫁できない業界の弱さが問題」(運送業)といった価格転嫁に対応できないとの声や、「包装資材や食材等が値上げ傾向。需要の減少する来春への影響が懸念される」(食料卸売業)、「今のところ原材料の高騰の影響は受けていないが、今後は影響を受けるものと考えられる」(獣医業)、「原油高によるメーカー商品の値上げでお客様の購買意欲の低下が心配」(総合スーパー)といった先行き不安の声も寄せられている。

○建築確認申請問題

「建築基準法改正は省人化、省力化に逆行しており、疲弊している業界に冷水をぶつけているようなものだ」(塗料卸売業)との厳しい現状を訴える声や、「建築確認の遅れにより、更に着工の遅れがあり、それにより受注も減少」(タイル工事業)、「ユニットハウスのレンタルは建築基準法改正の影響を受けている」(建設・建築用金属製品製造業)といった悪影響の声が各業種から寄せられている。

○競争激化

小売業中心に、「この2～3年以内に多くの商業施設がオープンしたが、内実はどの施設においても厳しいと推測される」(百貨店)との過当競争の声や、「通販がひしめき合い、納品業に痛手」(文房具小売業)といった流通変化に伴う競争激化の声が寄せられている。また、「原油高、原材料高が経営を圧迫し、大手の参入が大きな影響を与えている。経営の効率化は必要であるが限界がある。地元企業が大手とはどのように違うかをハッキリさせないと価格競争に陥るだけである」(各種食料小売業)とのコメントも寄せられている。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
7月	▲ 27.1	▲ 38.4	▲ 5.5	▲ 34.6	▲ 30.7

8月	▲ 31.9	▲ 35.7	▲ 5.5	▲ 44.4	▲ 38.4
9月	▲ 20.8	▲ 21.4	▲ 5.8	▲ 40.7	±0.0
10月	▲ 22.5	▲ 15.3	▲ 5.5	▲ 40.7	▲ 15.3
11月	▲ 31.7	▲ 23.5	▲ 23.8	▲ 40.7	▲ 35.2
12月	▲ 27.8	▲ 35.7	±0.0	▲ 40.0	▲ 31.2
見通し	▲ 31.6	▲ 42.8	▲ 15.7	▲ 36.6	▲ 31.2

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 8.8	▲ 22.7	▲ 34.1	▲ 36.7	▲ 53.1	▲ 48.1	△ 18.9	△ 16.4
建設	▲ 28.5	▲ 42.8	▲ 64.2	▲ 42.8	▲ 71.4	▲ 50.0	△ 7.1	△ 7.1
製造	△ 10.5	▲ 5.2	▲ 21.0	▲ 26.3	▲ 57.8	▲ 47.3	△ 15.7	△ 15.7
卸・小売	±0.0	▲ 23.3	▲ 30.0	▲ 46.6	▲ 46.6	▲ 46.6	△ 3.3	±0.0
サービス	▲ 31.2	▲ 25.0	▲ 31.2	▲ 25.0	▲ 43.7	▲ 50.0	△ 62.5	△ 56.2

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 27.8	▲ 31.6	▲ 18.9	▲ 18.9
建設	▲ 35.7	▲ 42.8	±0.0	±0.0
製造	±0.0	▲ 15.7	▲ 21.0	▲ 21.0
卸・小売	▲ 40.0	▲ 36.6	▲ 23.3	▲ 23.3
サービス	▲ 31.2	▲ 31.2	▲ 25.0	▲ 25.0

【平成19年12月の業況についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲27.8(前月水準▲31.7)となり、マイナス幅が△3.9ポイント縮小した。

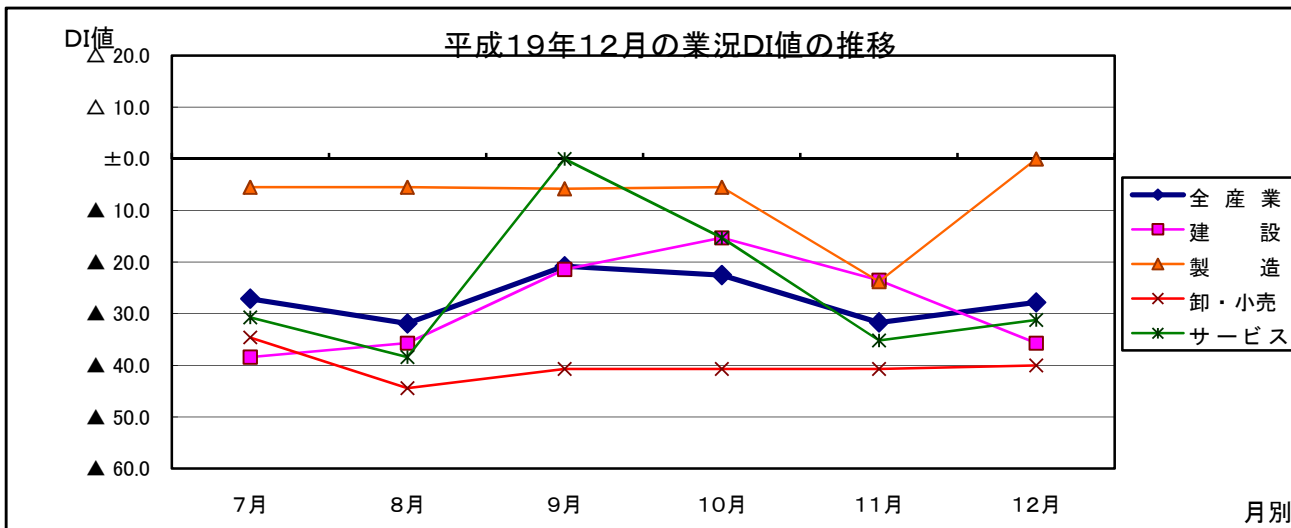
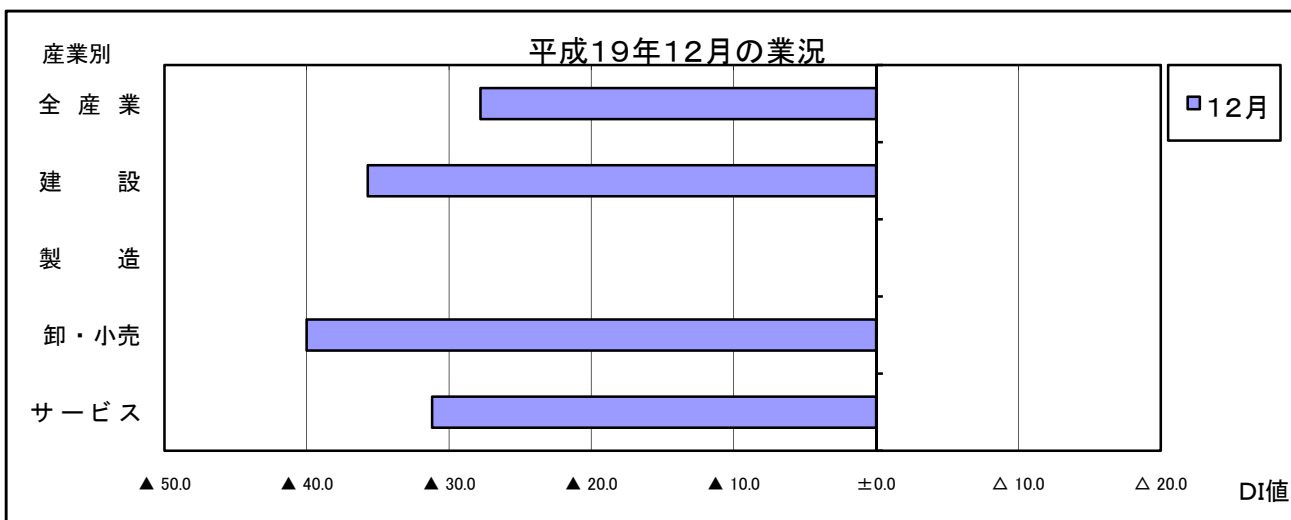
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業±0.0(同▲23.8)、サービス業▲31.2(同▲35.2)、卸小売業▲40.0(同▲40.7)である。特に、製造業はマイナス幅が△23.8ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲35.7(同▲23.5)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲31.6(前月水準▲24.3)となり、マイナス幅が▲7.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲36.6(同▲37.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲15.7(同▲4.7)、サービス業▲31.2(同▲17.6)、建設業▲42.8(同▲35.2)である。

平成19年12月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲27.1	▲31.9	▲20.8	▲22.5	▲31.7	▲27.8	▲31.6(▲24.3)
建設	▲38.4	▲35.7	▲21.4	▲15.3	▲23.5	▲35.7	▲42.8(▲35.2)
製造	▲5.5	▲5.5	▲5.8	▲5.5	▲23.8	±0.0	▲15.7(▲4.7)
卸・小売	▲34.6	▲44.4	▲40.7	▲40.7	▲40.7	▲40.0	▲36.6(▲37.0)
サービス	▲30.7	▲38.4	±0.0	▲15.3	▲35.2	▲31.2	▲31.2(▲17.6)



【平成19年12月の売上についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲8.8(前月水準▲21.9)となり、マイナス幅が△13.1ポイント縮小した。

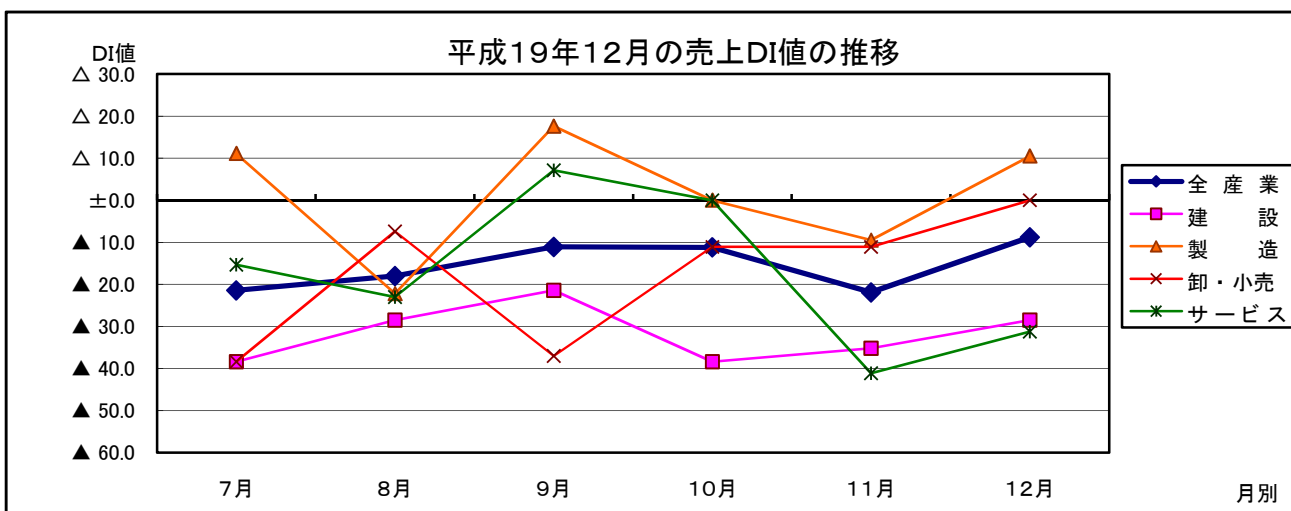
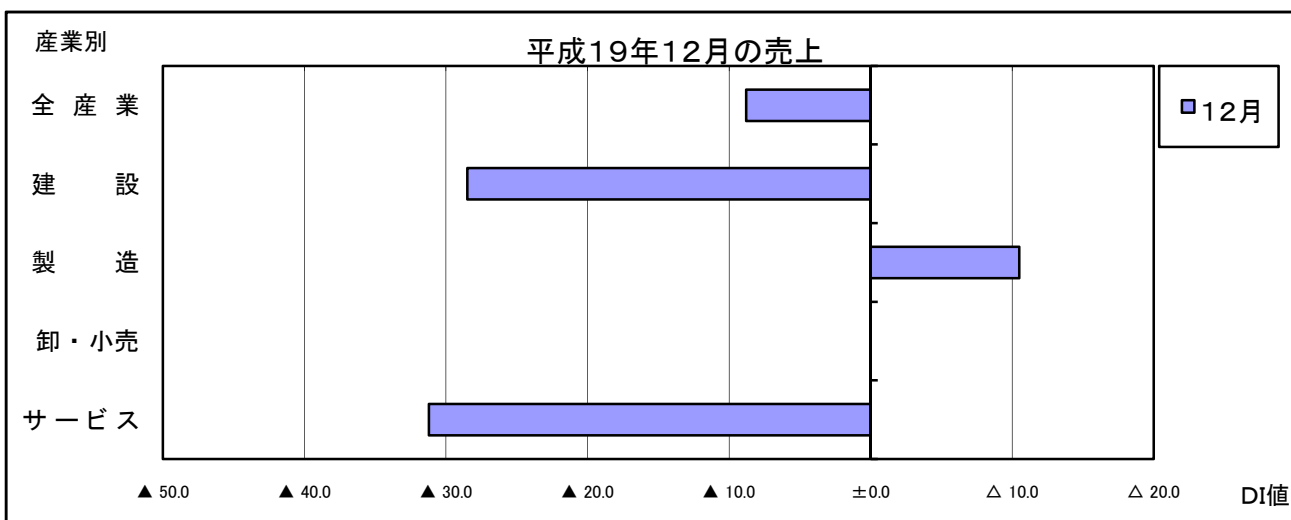
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△10.5(同▲9.5)であり、△20.0ポイントと大幅に改善した。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、卸小売業±0.0(同▲11.1)、サービス業▲31.2(同▲41.1)、建設業▲28.5(同▲35.2)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲22.7(前月水準▲9.7)となり、マイナス幅が▲13.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲23.3(同±0.0)、建設業▲42.8(同▲23.5)、サービス業▲25.0(同▲17.6)、製造業▲5.2(同▲4.7)であり、特に、卸小売業はマイナス幅が▲23.3ポイントと大幅に拡大した。

平成19年12月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲21.4	▲18.0	▲11.1	▲11.2	▲21.9	▲8.8	▲22.7(▲9.7)
建設	▲38.4	▲28.5	▲21.4	▲38.4	▲35.2	▲28.5	▲42.8(▲23.5)
製造	△11.1	▲22.2	△17.6	±0.0	▲9.5	△10.5	▲5.2(▲4.7)
卸・小売	▲38.4	▲7.4	▲37.0	▲11.1	▲11.1	±0.0	▲23.3(±0.0)
サービス	▲15.3	▲23.0	△7.1	±0.0	▲41.1	▲31.2	▲25.0(▲17.6)



【平成19年12月の採算についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲34.1(前月水準▲28.0)となり、マイナス幅が▲6.1ポイント拡大した。

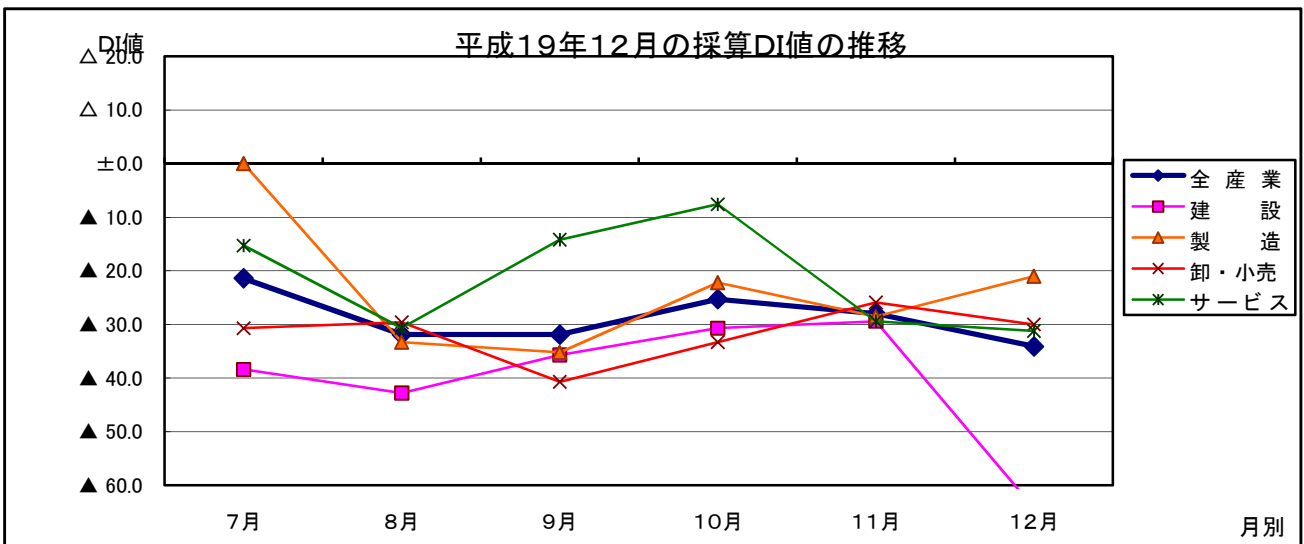
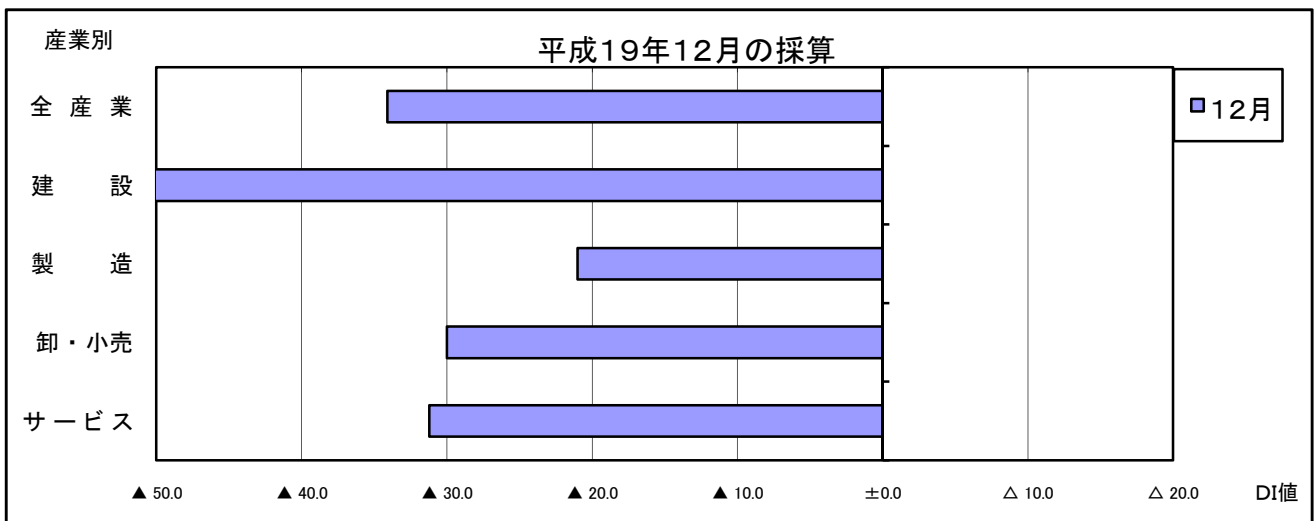
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲21.0(同▲28.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業▲64.2(同▲29.4)、卸小売業▲30.0(同▲25.9)、サービス業▲31.2(同▲29.4)であり、特に、建設業はマイナス幅が▲34.8ポイントと大幅に拡大した。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲36.7(前月水準▲21.9)となり、マイナス幅が▲14.8ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、サービス業▲25.0(同▲29.4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲26.3(同▲4.7)、建設業▲42.8(同▲23.5)、卸小売業▲46.6(同▲29.6)であり、特に、製造業はマイナス幅が▲21.6ポイントと大幅に拡大した。

平成19年12月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲21.4	▲31.9	▲31.9	▲25.3	▲28.0	▲34.1	▲36.7(▲21.9)
建設	▲38.4	▲42.8	▲35.7	▲30.7	▲29.4	▲64.2	▲42.8(▲23.5)
製造	±0.0	▲33.3	▲35.2	▲22.2	▲28.5	▲21.0	▲26.3(▲4.7)
卸・小売	▲30.7	▲29.6	▲40.7	▲33.3	▲25.9	▲30.0	▲46.6(▲29.6)
サービス	▲15.3	▲30.7	▲14.2	▲7.6	▲29.4	▲31.2	▲25.0(▲29.4)



【平成19年12月の仕入単価についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲53.1(前月水準▲60.9)となり、マイナス幅が△7.8ポイント縮小した。

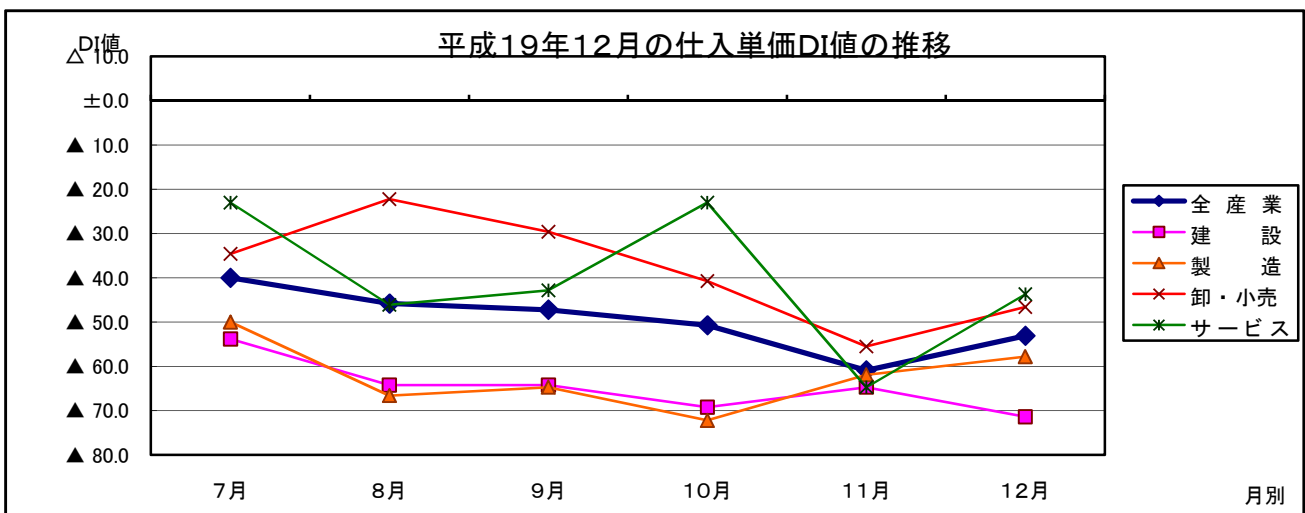
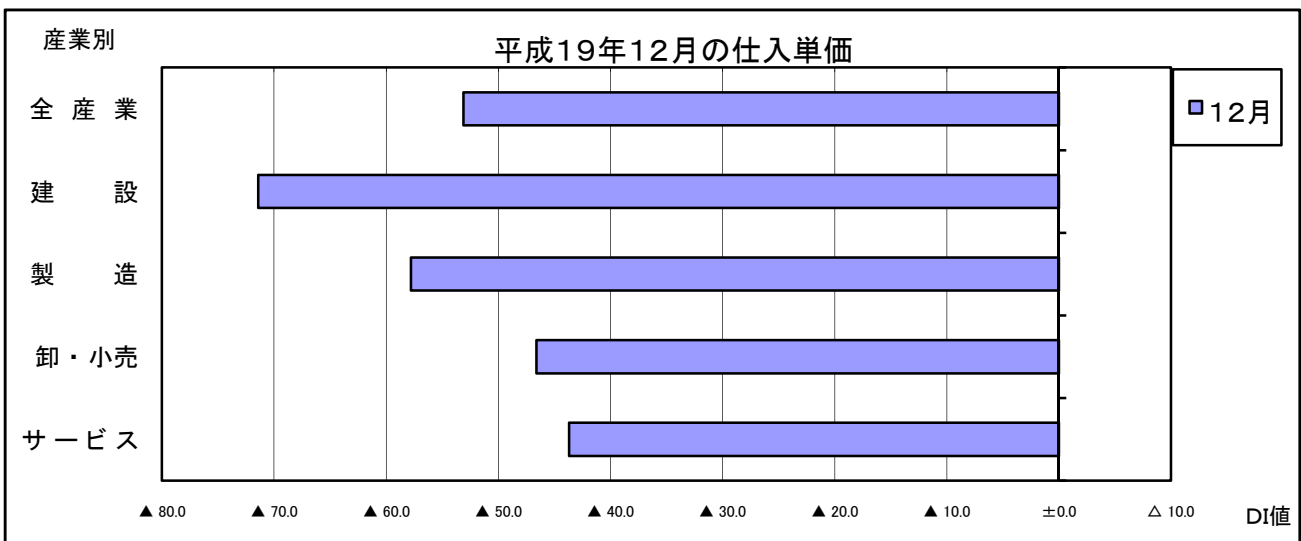
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲43.7(同▲64.7)、卸小売業▲46.6(同▲55.5)、製造業▲57.8(同▲61.9)であり、特に、サービス業はマイナス幅が△21.0ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、建設業▲71.4(同▲64.7)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲48.1(前月水準▲51.2)となり、マイナス幅が△3.1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲46.6(同▲59.2)、製造業▲47.3(同▲47.6)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲50.0(同▲47.0)、サービス業▲50.0(同▲47.0)である。

平成19年12月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲40.0	▲45.8	▲47.2	▲50.7	▲60.9	▲53.1	▲48.1(▲51.2)
建設	▲53.8	▲64.2	▲64.2	▲69.2	▲64.7	▲71.4	▲50.0(▲47.0)
製造	▲50.0	▲66.6	▲64.7	▲72.2	▲61.9	▲57.8	▲47.3(▲47.6)
卸・小売	▲34.6	▲22.2	▲29.6	▲40.7	▲55.5	▲46.6	▲46.6(▲59.2)
サービス	▲23.0	▲46.1	▲42.8	▲23.0	▲64.7	▲43.7	▲50.0(▲47.0)



【平成19年12月の従業員についての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△18.9(前月水準△18.2)となり、プラス幅が△0.7ポイント拡大した。

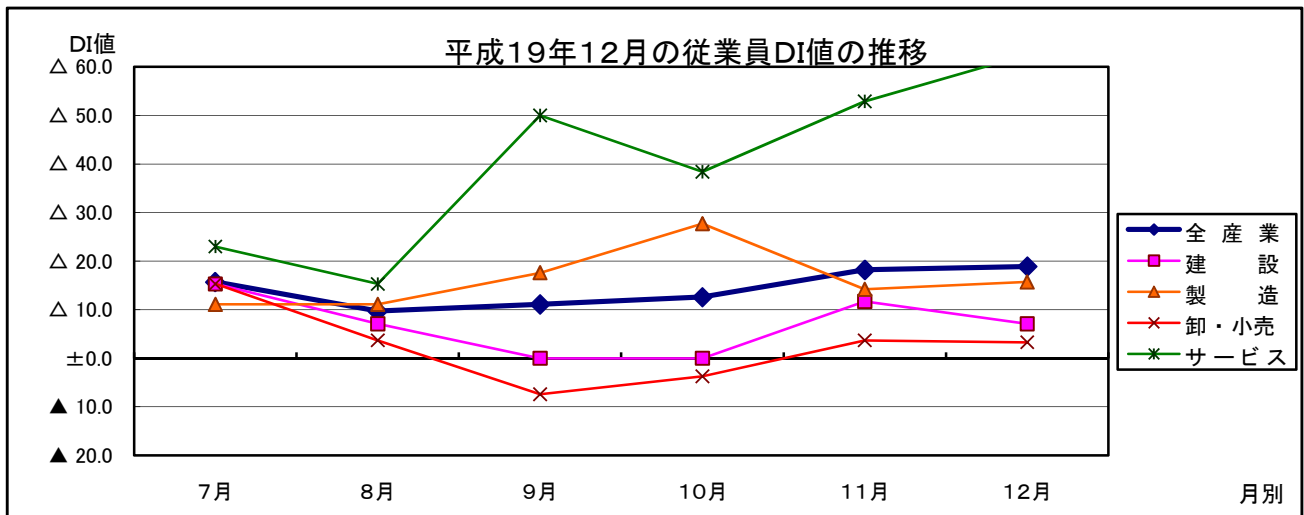
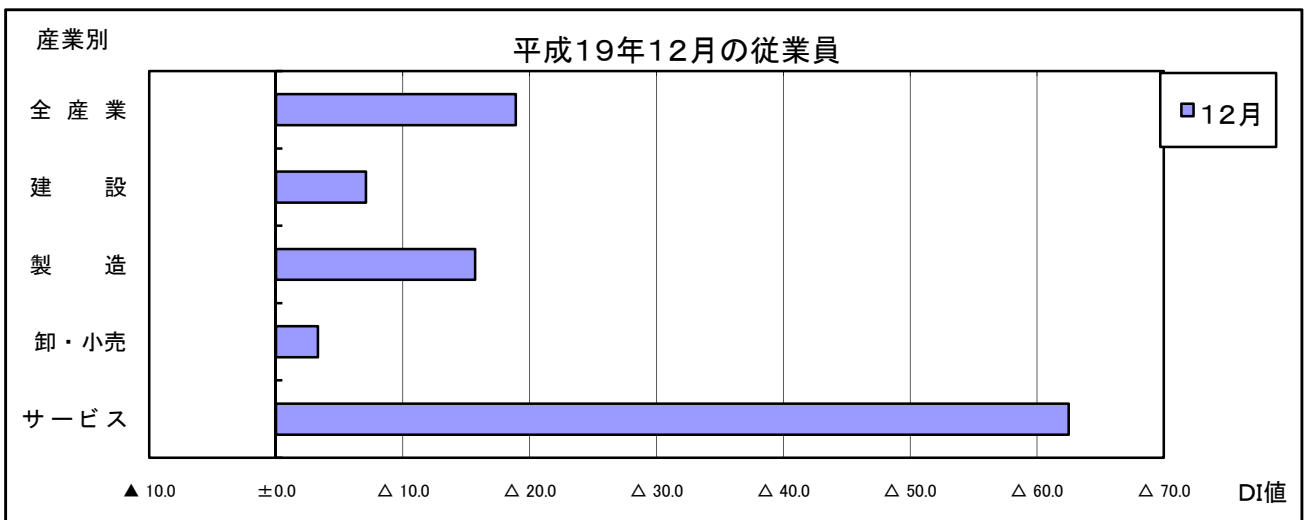
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業△62.5(同△52.9)、製造業△15.7(同△14.2)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業△7.1(同△11.7)、卸小売業△3.3(同△3.7)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、△16.4(前月水準△20.7)となり、プラス幅が▲4.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△15.7(同△14.2)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業±0.0(同△7.4)、建設業△7.1(同△11.7)、サービス業△56.2(同△58.8)である。

平成19年12月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成19年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	△15.7	△9.7	△11.1	△12.6	△18.2	△18.9	△16.4(△20.7)
建設	△15.3	△7.1	±0.0	±0.0	△11.7	△7.1	△7.1(△11.7)
製造	△11.1	△11.1	△17.6	△27.7	△14.2	△15.7	△15.7(△14.2)
卸・小売	△15.3	△3.7	▲7.4	▲3.7	△3.7	△3.3	±0.0(△7.4)
サービス	△23.0	△15.3	△50.0	△38.4	△52.9	△62.5	△56.2(△58.8)



【平成19年12月の資金繰りについての状況】

○ 12月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲18.9(前月水準▲15.8)となり、マイナス幅が▲3.1ポイント拡大した。

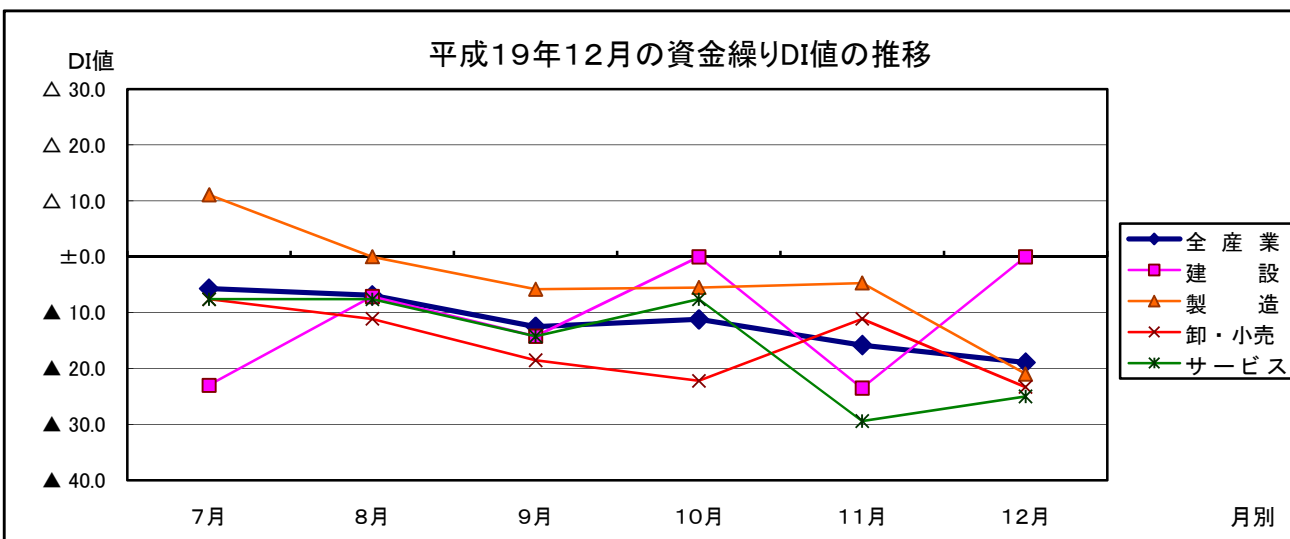
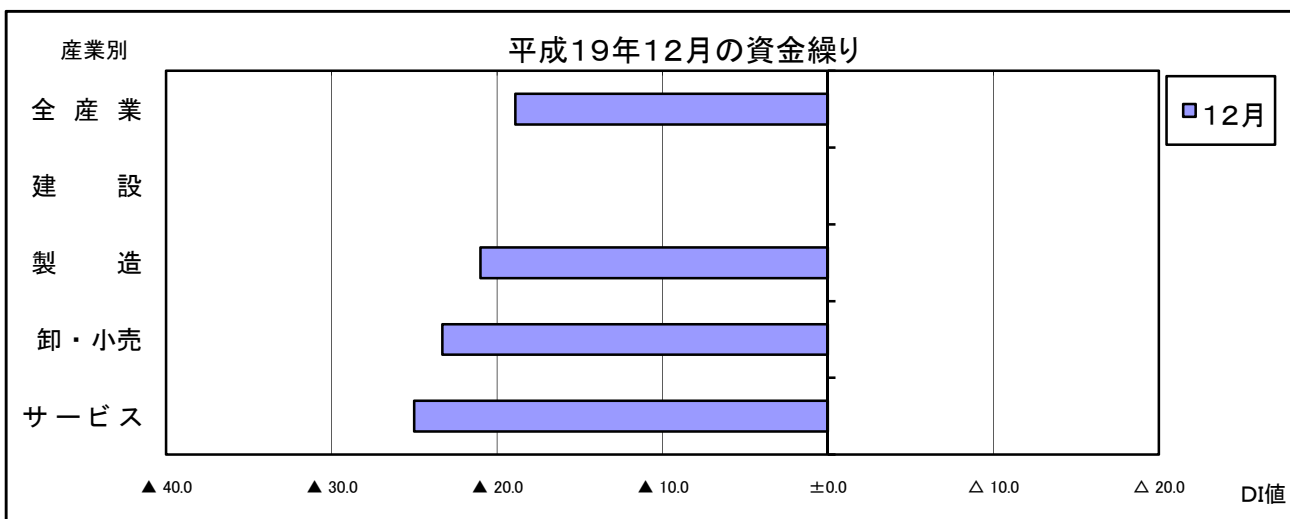
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同▲23.5)、サービス業▲25.0(同▲29.4)であり、特に、建設業はマイナス幅が△23.5ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業▲21.0(同▲4.7)、卸小売業▲23.3(同▲11.1)である。

○ 向こう3ヶ月(1月から3月)の先行き見通しについては、全産業では、▲18.9(前月水準▲14.6)となり、マイナス幅が▲4.3ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業±0.0(同▲11.7)、サービス業▲25.0(同▲29.4)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業▲21.0(同▲4.7)、卸小売業▲23.3(同▲14.8)である。

平成19年12月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成19年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1月~3月(12月~2月)
全産業	▲ 5.7	▲ 6.9	▲ 12.5	▲ 11.2	▲ 15.8	▲ 18.9	▲ 18.9 (▲ 14.6)
建設	▲ 23.0	▲ 7.1	▲ 14.2	±0.0	▲ 23.5	±0.0	±0.0 (▲ 11.7)
製造	△ 11.1	±0.0	▲ 5.8	▲ 5.5	▲ 4.7	▲ 21.0	▲ 21.0 (▲ 4.7)
卸・小売	▲ 7.6	▲ 11.1	▲ 18.5	▲ 22.2	▲ 11.1	▲ 23.3	▲ 23.3 (▲ 14.8)
サービス	▲ 7.6	▲ 7.6	▲ 14.2	▲ 7.6	▲ 29.4	▲ 25.0	▲ 25.0 (▲ 29.4)



【平成19年12月の業種別業界内トピックス】

産業別	概況	キーワード	業種	キーワード
建設	原油価格の値上がりはいろいろな面でマイナスの影響が出てくると思います。	・仕入コスト ・原油高騰	一般土木建築工事業	・民間工事増加 ・建築確認申請問題
	建築確認の遅れにより、更に着工の遅れがあり、それにより受注も減少している。	・建築確認申請問題 ・受注減少	石工・れんが・タイル・ブロック工事業	・工期遅延 ・年末工事集中
	材料・ガソリンなどの原価の高騰に伴って、自社単価を上げることはなかなかできないので厳しい状況です。	・仕入コスト ・ガソリン値上げ ・価格転嫁	板金・金物工事業	・ガソリン値上げ ・経費増加 ・仕入コスト
	仕事があっても、原材料が高く採算が合わないことが多い。	・仕入コスト ・不採算物件 ・収益悪化	電気工事業	・仕入コスト ・ガソリン値上げ ・売上減少
製造	原油高騰により、原材料全般の購入代金の上昇があり、収益に大きく影響を受けている。	・原油高騰 ・仕入コスト	有機化学工業製品製造業	・原油高騰 ・仕入コスト ・価格転嫁
	燃料費の高騰が業績に大きく影響を与えている。	・仕入コスト	ゴムベルト・ゴムホース・工業用ゴム製品製造業	・仕入コスト ・価格転嫁
	ユニットハウスのレンタルは建築基準法改正の影響を受けている。 プルサーマル計画準備、もんじゅ再始動などの動向が活発になっている。	・建築確認申請問題 ・原子力発電	建設用・建築用金属製品製造業(製缶板金属を含む) その他の化学工業	・建築確認申請問題 ・建築確認申請問題
卸小売	包装資材や食材等が値上げ傾向にあります。需要の減少する来春への影響が懸念されます。 食品の表示や賞味期限の改ざんなど大きなニュースとして取り上げられていますが、政治家や役人がやっている悪事と全く同じで、昔から日常の常識的に行われている行為だと思います。	・仕入コスト ・食品表示問題	食料・飲料卸売業	・展示会好調 ・仕入コスト
	当月は特に目立った動きはありませんが、柏の葉「ららぽーと」がオープン後、一年を経て、入店客数、売上高とも目標に未達であったことが新聞に報じられていました。この2～3年以内に多くの商業施設がオープンしましたが、内実はどの施設においても厳しいと推測されます。	・競争激化 ・過当競争 ・厳しい業況	百貨店	
	SC内の作りたてパンの店オープンにより、新規のお客様が来店している。 原油高によるメーカー商品の値上げによるお客様の心理的値上げの購買意欲の低下が心配です。	・テナントオープン ・値上げ ・原油高騰	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)	・建築確認申請問題
	原油高、原材料高が経営を圧迫し、大手の参入が地元の企業に大きな影響を与えている。経営の効率化は必要であるが限界がある。地元の企業が大手とはどのように違うかをハッキリさせなければならぬ。同じでは単なる価格競争に陥るだけである。	・原油高騰 ・仕入コスト ・競争激化 ・差別化戦略	各種食料品小売業	・研究施設取得
	最近の野菜・果実の入荷状況はやや減少し、単価安の傾向であります。よって年末年始の需要と供給のバランスや商戦にも不透明さを感じています。しかし、青果卸としての使命を全うすべく、消費動向や産地情勢に傾注し、期待に応えられるよう、各地域のイベント情報含め、販売活路を	・入荷減少・単価安 ・年末商戦 ・先行き不透明	食料・飲料卸売業	・都内商業施設開店 ・ユーロ高 ・仕入コスト
	パン等一部の商品で仕入値が上がった物もあるが、当店(セブンイレブン 柏逆井店)が売上前年割れとなっているのは近くのスーパーが7月に酒小売の免許を取得したため、酒類の落ち込みがある。その他は不変か若干伸びている。毎年1月2月は売上の悪い時期。 猛烈に忙しい。人材不足。忙しい、忙しい、以上。	・仕入コスト ・売上減少 ・競合店の影響	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)	・グランドオープン
		・人手不足	その他の飲食料品小売業	・天候の影響 ・野菜入荷増 ・果実入荷増・単価安 ・年末商戦

【平成19年12月の業種別業界内トピックス】

	12月ますます仕入価格は上昇。頑張っで商売に身を入れていくしか道はない。苦勞が嫌なら転業しかない。引退にはまだ10年早い。この嵐を乗り越える決意と努力の必要性を切に感じる。	・仕入コスト	燃料小売業(ガソリンスタンド含まず)	・仕入コスト
	ステーションモール店の移転で売上が減少のため(店舗面積の縮小)業績が悪化した。	・売場縮小 ・業績悪化	書籍・文房具小売業	・仕入コスト
	賞与の時期となったが、大きなピークも無く推移している。平日と日祝祭日の売上が平準化してきている。	・年末商戦 ・売上平準化	その他の各種商品小売業(従業者が常時50人未満のもの)	・価格転嫁 ・仕入コスト ・資金繰り
	12月度は月初から入店客数は前年を下回る推移となり、売上高も低調な推移となった。2週目以降、入店客数は以前伸び悩んでいるが、売上高は衣料品を中心に伸びをみせたものの、前年は若干下回る推移となっている。 後半は先月から開催している「2007Christmas LIVE LAUGH LOVE」フェアで館内装飾やイベントでクリスマスを演出し、クリスマス商戦で実通販がひしめき合い、納品業に痛手。	・入店客数減少 ・売上減少 ・衣料品好調 ・クリスマス商戦	各種商品小売業	・売場縮小 ・売上減少
	建築基準法改正は省人化、省力化に逆行しており、疲弊している業界に冷水をぶつけているようなものだ。仕入商品の値上げに伴う売価改定に多くの労力が費やされ、ついて行けない。	・競争激化	書籍・文房具小売業	・冬物バーゲン
	建築基準法改正は省人化、省力化に逆行しており、疲弊している業界に冷水をぶつけているようなものだ。仕入商品の値上げに伴う売価改定に多くの労力が費やされ、ついて行けない。	・建築確認申請問題 ・仕入コスト ・価格転嫁	塗料卸売業	・天候の影響 ・クリスマス商戦
サービス	運送業にとって、軽油等の燃料費コストアップは、経営収支に大きくマイナス影響している。燃料費の高騰を運賃に転嫁できない業界の弱さが問題。	・仕入コスト ・収益悪化 ・価格転嫁	一般貨物自動車運送業	・食品偽造 ・仕入コスト ・価格転嫁 ・採算悪化
	常連の方のクリスマスの予約が増え、1ヶ月前から予約が入り始めました。今年は22日が土曜日なので、22日のクリスマスディナーを予約される方が多いようです。	・クリスマス商戦	食堂・レストラン	・仕入コスト ・価格転嫁 ・売上低迷
	先行き見通しがたたない！ 宿泊は下期下降気味、宴会順調、会議・展示会不調。	・先行き不透明 ・宿泊減少 ・宴会好調 ・会議・展示会不調	食堂・レストラン ホテル	・クリスマス商戦 ・七五三
	永く低迷が続く中、より厳しい状況が続いています。個人店として、続けていく状況に不安が大きくなってきています。暗中模索が長く続いておりません。休日と平日の差が大きいです。どこの店もこんな話題です。	・厳しい業況 ・先行き不透明 ・売上差拡大	そば・うどん店	・飲食店不調
	企業倫理が問われている現在、社会貢献(社会のため)、顧客第一主義(お客様のため)と声高々に叫ばれておりますが、世のため・人のために真面目に商売されている方が小売店を中心に閉店される店が多くなっているのはなぜか？世の中のニーズに合っていないとか、仕入の問題とか大型店とか原因はあると思うが、商売まじめだけではだめな時代になった	・個人店衰退	酒場・ビヤホール	・会議、展示会苦戦 ・宴会好調 ・宿泊好調
	今のところ原材料の高騰の影響は受けていないが、今後は影響を受けるものと考えられる。飼い主の財布の紐は固くなっている。そのため今後の売上の伸びは期待できない。	・仕入コスト ・消費意欲の低下	獣医業	・人手不足 ・広告費増加 ・人件費増加 ・仕入コスト

【平成19年12月の多い景気キーワード】

◎仕入コスト上昇

- ・ 原油価格の値上がりはいろいろな面でマイナスの影響が出てくると思いま
- ・ 材料・ガソリンなどの原価の高騰に伴って、自社単価を上げることはなかなかできないので厳しい状況です。
- ・ 仕事があっても、原材料が高く採算が合わないことが多い。
- ・ 原油高騰により、原材料全般の購入代金の上昇があり、収益に大きく影響を受けている。
- ・ 燃料費の高騰が業績に大きく影響を与えている。
- ・ 包装資材や食材等が値上げ傾向にあります。需要の減少する来春への影響が懸念されます。
- ・ 原油高、原材料高が経営を圧迫
- ・ パン等一部の商品で仕入値が上がった物もあるが、当店(セブンイレブン柏逆井店)が売上前年割れとなっているのは近くのスーパーが7月に酒小売の免許を取得したため、酒類の落ち込みがある。その他は不変か若干伸びている。毎年1月2月は売上の悪い時期。
- ・ 12月ますます仕入価格は上昇。頑張って商売に身を入れていくしか道はない。苦労が嫌なら転職業しかない。引退にはまだ10年早い。この嵐を乗り越える決意と努力の必要性を切に感じる。
- ・ 建築基準法改正は省人化、省力化に逆行しており、疲弊している業界に冷水をぶつけているようなものだ。仕入商品の値上げに伴う売価改定に多くの労力が費やされ、ついて行けない。
- ・ 今のところ原材料の高騰の影響は受けていないが、今後は影響を受けるものと考えられる。飼主の財布の紐は固くなっている。そのため今後の売上の伸びは期待できない。

◎建築確認申請問題

- ・ 建築確認の遅れにより、更に着工の遅れがあり、それにより受注も減少して
- ・ ユニットハウスのレンタルは建築基準法改正の影響を受けている。
- ・ 建築基準法改正は省人化、省力化に逆行しており、疲弊している業界に冷水をぶつけているようなものだ。

◎競争激化





- ・ 当月は特に目立った動きはありませんが、柏の葉「ららぼーと」がオープン後、一年を経て、入店客数、売上高とも目標に未達であったことが新聞に報じられていました。この2～3年以内に多くの商業施設がオープンしましたが、内実はこの施設においても厳しいと推測されます。
- ・ 原油高、原材料高が経営を圧迫し、大手の参入が地元の企業に大きな影響を与えている。経営の効率化は必要であるが限界がある。地元の企業が大手とはどのように違うかをハッキリさせていかなければならない。同じでは単なる価格競争に陥るだけである。
- ・ 通販がひしめき合い、納品業に痛手。











平成19年12月のCCI - LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲27.8に対し、「CCI-LOBO」が▲40.8で、マイナス幅が13.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲8.8に対し、「CCI-LOBO」が▲29.9で、マイナス幅が21.1ポイント小さい。「柏の景気」の方が10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・卸小売業。「柏の景気」の方が悪い業種は、サービス業。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲34.1に対し、「CCI-LOBO」が▲38.5で、マイナス幅が4.4ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、製造業・卸売業・サービス業で、10ポイント以上良い業種は、製造業。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲53.1に対し、「CCI-LOBO」が▲44.4で、マイナス幅が8.7ポイント大きい。「柏の景気」の方が全ての業種で悪くなっており、10ポイント以上悪い業種は、建設業・卸小売業。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△18.9に対し、「CCI-LOBO」が▲2.2で、プラス幅が21.1ポイント大きい。「柏の景気」の方が全ての業種で良くなっており、10ポイント以上良い業種は、建設業・製造業・サービス業。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲18.9に対し、「CCI-LOBO」が▲24.9で、マイナス幅が6.0ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業で、10ポイント以上良い業種は、建設業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸売業・サービス業。











平成19年12月の柏の景気天気図


柏の景気情報と全国CCI LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI 50	好調 50>DI 25	まあまあ 25>DI 0	不振 0>DI 25	極めて不振 25>DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 27.8	 35.7	 ±0.0	 40.0	 31.2
CCI LOBO	 40.8	 57.3	 34.9	 39.0	 37.1


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 8.8	 28.5	 10.5	 ±0.0	 31.2
CCI LOBO	 29.9	 51.6	 19.1	 29.8	 23.7


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 34.1	 64.2	 21.0	 30.0	 31.2
CCI LOBO	 38.5	 56.7	 37.0	 34.3	 32.6

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 53.1	 71.4	 57.8	 46.6	 43.7
CCI LOBO	 44.4	 53.1	 57.5	 34.1	 41.4

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 18.9	 7.1	 15.7	 3.3	 62.5
CCI LOBO	 2.2	 18.0	 1.0	 1.5	 1.1

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 18.9	 ±0.0	 21.0	 23.3	 25.0
CCI LOBO	 24.9	 38.3	 23.3	 20.7	 23.0

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

柏の景気情報

(12月の調査結果のポイント)

調査期間：平成19年12月21日～25日

調査対象：柏市内112事業所及び組合にヒアリング、回答数79

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
7月	27.1	38.4	5.5	34.6	30.7
8月	31.9	35.7	5.5	44.4	38.4
9月	20.8	21.4	5.8	40.7	±0.0
10月	22.5	15.3	5.5	40.7	15.3
11月	31.7	23.5	23.8	40.7	35.2
12月	27.8	35.7	±0.0	40.0	31.2
見通し	31.6	42.8	15.7	36.6	31.2

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

柏市の業況

十二月の全産業合計のD I 値(前年同月比)ベース、以下同じは、一七八(前月水準三二・七となり、マイナス幅が三・九ポイント縮小した。業種別では、前月水準と比べてマイナス幅が縮小した業種は幅の大きい順に、製造業±〇・〇同、一三三・八、サービス業三二・二(同、三五・一)、卸小売業四〇・〇(同、四〇・七)である。特に、製造業はマイナス幅が一三・八ポイントと大幅に縮小した。マイナス幅が拡大した業種は、建設業 三五・七同、一三三・五である。

【建設業】では、「建築確認の遅れにより、更に着工の遅れがあり、それにより受注も減少」「タイル工事業」といった建築確認申請問題の影響の声や、「原油価格の値上がりはいろいろな面でマイナスの影響が出てくると思う」「(一般工事業)」「材料、ガソリンなどの原価の高騰に伴って、自社単価を上げることはできないので厳しい状況である」「(板金事業)」「仕事があっても、原材料が高採算が合わないことが多い」「(電気工事業)といった仕入・コスト上昇による厳しい声が多く寄せられた。

【製造業】では、「ユニットハウスのレンタルは建築基準法改正の影響を受けている」「(建設・建築用金属製品製造業)との建築確認申請問題の声や、「原油高騰により原材料全般の購入代金の上昇があり、収益に大きく影響を受けている」「(有機化学工業製品製造業)」「燃料費の高騰が業績に大きく影響を与えている」「(工業用ゴム製品製造業)といった仕入・コスト上昇による収益悪化の声が寄せられた。また、原油高騰に伴ってエネルギー問題として、「ブルサーマル計画準備も同じ再始動などの動向が活発」「ロボット製造業」とのコメントも寄せられている。

【卸小売業】では、「SC内のパンの店オープンにより、新規のお客様が来店」「(総合スーパー)」「猛烈に忙しい。人手不足(学生衣料)との一部明るい声も寄せられているが、「移転」店舗面積

の縮小)で売上が減少のため業績が悪化」「(書籍小売)」「売上高は衣料品を中心に伸びをみせたが前年は若干下回る推移となっている」「(各種商卸小売業)」「近くのスーパーが酒小売の免許を取得したため、酒類の落ち込みがある」「(コンビニエンスストア)といった厳しい声が多く寄せられている。また、「賞与の時期だが大きなピークも無く推移。平日と日祝祭日の売上高が平準化してきている」「(各種商卸小売業)との声や、「野菜・果実の入荷状況はやや減少、単価安の傾向により、年末年始の需要と供給のバランスや商戦にも不透明さを感じている」「(青果卸売業)といった先行き不透明の声の他、「食品の表示や賞味期限の改定など」コースとして取り上げられているが、昔から行われている行為だと思つ」「(食料卸売業)といった食品表示問題に関するコメントが寄せられている。

【サービス業】では、「クリスマス予約が増え、二十一日土曜日のクリスマスディナーを予約される方が多い」「(レストラン)といったクリスマス商戦好調の声も寄せられているが、「休日と平日の差が大きい」「(そば店)」「宿泊は下期下降気味、宴会順調、会議・展示会不調」「(ホテル)」「先行き見通しが立たない」「(日本料理)との声の他、「真面目に商売されている方が小売店を中心に閉店される店が多くなっている」「(居酒屋)といった厳しいコメントが寄せられている。

【サービス業】では、「クリスマス予約が増え、二十一日土曜日のクリスマスディナーを予約される方が多い」「(レストラン)といったクリスマス商戦好調の声も寄せられているが、「休日と平日の差が大きい」「(そば店)」「宿泊は下期下降気味、宴会順調、会議・展示会不調」「(ホテル)」「先行き見通しが立たない」「(日本料理)との声の他、「真面目に商売されている方が小売店を中心に閉店される店が多くなっている」「(居酒屋)といった厳しいコメントが寄せられている。

十二月の景気キーワード

仕入コスト上昇
「仕事があっても、原材料が高採算が合わないことが多い」「(電気工事業)」「ますます仕入価格は上昇」「(燃料小売業)といった声が多業種から寄せられている。また、「仕入商品の値上げに伴う売価改定に多くの労力が費やされ、ついに行けない」「(塗料卸売業)」「軽油等の燃料費コストアップは、経営収支に大きくマイナス影響している。燃料費の高騰を運賃に転嫁できない業界の弱さが問題」「(運送業)といった価格転嫁に対応できないとの声や、「包装資材や食材等が値上げ傾向。需要の減少する来春への影響が懸念される」「(食料卸売業)」「今のところ原材料の高騰の影響は受けていないが、今後は影響を受けるものと考えられる」「(獣医薬)」「原油高によるメーカー商品の値上げでお客様の購買意欲の低下が心配」「(総合スーパー)といった先行き不安の声も寄せられている。

建築確認申請問題
「建築基準法改正は省人化、省力化に逆行しており、疲弊している業界に冷水をぶつけているようなものだ」「(塗料卸売業)との厳しい現状を訴える声や、「建築確認の遅れにより、更に着工の遅れがあり、それにより受注も減少」「(タイル工事業)」「ユニットハウスのレンタルは建築基準法改正の影響を受けている」「(建設・建築用

「仕事があっても、原材料が高採算が合わないことが多い」「(電気工事業)」「ますます仕入価格は上昇」「(燃料小売業)といった声が多業種から寄せられている。また、「仕入商品の値上げに伴う売価改定に多くの労力が費やされ、ついに行けない」「(塗料卸売業)」「軽油等の燃料費コストアップは、経営収支に大きくマイナス影響している。燃料費の高騰を運賃に転嫁できない業界の弱さが問題」「(運送業)といった価格転嫁に対応できないとの声や、「包装資材や食材等が値上げ傾向。需要の減少する来春への影響が懸念される」「(食料卸売業)」「今のところ原材料の高騰の影響は受けていないが、今後は影響を受けるものと考えられる」「(獣医薬)」「原油高によるメーカー商品の値上げでお客様の購買意欲の低下が心配」「(総合スーパー)といった先行き不安の声も寄せられている。

金属製品製造業)といった悪影響の声が多業種から寄せられている。

競争激化

小売業中心に、「この二三年以内に多くの商業施設がオープンしたが、内表はどの施設においても厳しいと推測される」「(百貨店)との過当競争の声や、「通販がひしめき合い、納品業に痛手」「(文房具小売業)といった流通変化に伴う競争激化の声が寄せられている。また、「原油高、原材料高が経営を圧迫し、大手の参入が大きな影響を与えている。経営の効率化は必要であるが限界がある。地元企業が大手とはどのように違うかをハッキリさせないと価格競争に陥るだけである」「(各種食料小売業)とのコメントも寄せられている。

CCI LOBOとの比較
全産業合計では、「柏の景気」が一七八に対し、「CCI LOBO」が四〇・八で、マイナス幅が一三・〇ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業・製造業・サービス業で、一〇ポイント以上良い業種は建設業・製造業。「柏の景気」の方が悪い業種は、卸小売業。

「仕事があっても、原材料が高採算が合わないことが多い」「(電気工事業)」「ますます仕入価格は上昇」「(燃料小売業)といった声が多業種から寄せられている。また、「仕入商品の値上げに伴う売価改定に多くの労力が費やされ、ついに行けない」「(塗料卸売業)」「軽油等の燃料費コストアップは、経営収支に大きくマイナス影響している。燃料費の高騰を運賃に転嫁できない業界の弱さが問題」「(運送業)といった価格転嫁に対応できないとの声や、「包装資材や食材等が値上げ傾向。需要の減少する来春への影響が懸念される」「(食料卸売業)」「今のところ原材料の高騰の影響は受けていないが、今後は影響を受けるものと考えられる」「(獣医薬)」「原油高によるメーカー商品の値上げでお客様の購買意欲の低下が心配」「(総合スーパー)といった先行き不安の声も寄せられている。

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(12月速報)

調査期間：平成19年12月13日～19日

調査対象：全国の407商工会議所が2578業種組合等にヒアリング調査を実施。

全国の業況

全指標が悪化、業況DIは四年ぶりにマイナス四〇台へ

十一月の景況をみると、全産業合計の業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)は、前月水準(三六・一)よりマイナス幅が四七ポイント拡大して四〇・八となり、四カ月連続で拡大した。マイナス四〇台は五十一カ月ぶり。

産業別の業況DIは、卸売がほぼ横ばいであったものの、他の四業種でマイナス幅が拡大した。

【建設業】からは、「昨年比べ、売上は増加(一般事業)との声がある一方、原油高による建築資材および燃料費の高騰が、収益を圧迫(建築事業)」、「改正建築基準法の影響による受注の減少、資金繰りの悪化に加え、倒産も発生(一般事業)との声」が寄せられている。

【製造業】からは、「中国向けの輸出は好調(織物業)との声がある一方、原材料価格の上昇に対し、販売価格への転嫁は難しく、採算は悪化(繊維機械製造業)」、「建築基準法の改正により住宅着工件数が大幅に減少するなど、今後も悪影響が続く見込み(製材木製品製造業)との声も寄せられている。

る。

【卸売業】からは、「年末の売上の増加は期待できる見込み(各種商品卸売業)との声がある一方、原油価格の高騰により、仕入単価に加え物流コストも更に上昇し、採算が悪化(各種商品卸売業)」、「食料品の値上げの影響により、売上の減少を懸念(農畜産水産物卸売業)との声も寄せられている。

【小売業】からは、「衣料・雑貨を中心に売上は好調(百貨店)との声がある一方、原油や原材料価格の高騰に伴う食料品の値上がりにより、消費意欲の減退を懸念(商店街)」、「大型店進出の影響により、売上の減少が続く(商店街)との声」が寄せられている。

【サービス業】からは、「昨年比べ、売上は若干上昇(食堂・レストラン)との声がある一方、原油価格高騰の影響による消費者の買い控え感があり、売上も減少傾向(自動車整備業)」、「食料品価格の上昇が続く、採算が悪化(旅館)との声も寄せられている。

十一月のキーワード

悪化への懸念

各業種から、業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声寄せられている。建設、製造から

は、「原油価格の高騰に伴う燃料費、石油製品の値上がりの影響が大きく、相変わらず厳しい状況が続く見込み(札幌・一般事業)」、「受注量、売上は上昇している一方、採算の悪化は今後も続く見込み(西尾・鉄素形材製造業)との声」が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「食肉関連商品の値上げが予定されており、業況の悪化を懸念(倉吉・農畜産水産物卸売業)」、「生活用品の相次ぐ値上げにより、年末年始の売上の減少を懸念(伊万里・商店街)」、「原材料価格の上昇が営業利益を圧迫、今後更なる悪影響を懸念(帯広・食堂・レストラン)といったコメント」が寄せられている。

仕入コスト上昇

各業種から、原材料価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声寄せられている。建設、製造からは、「原油価格の更なる値上げにより、採算が悪化、他の資材価格の値上がりも今後の懸念材料(帯広・一般工事業)」、「原材料、包装資材価格の高騰が収益を圧迫(新潟・水産資材卸製造業)」、「原材料価格の上昇に対し、製品価格への転嫁は難しく、採算が悪化(水戸・パン・菓子製造業)との声」が寄せられている。また、卸売、小売、サービスから

も、「原油価格に加え、食料品の価格も上昇するなど、経費が

増加(土別・その他の小売業)、「食料品や灯油の値上げが、採算の悪化に影響(土別・旅館)といったコメント」が寄せられている。

消費意欲の低下

原油価格の高騰に伴う各種商品の値上げに対する不安感から、消費者の購買意欲の低下による悪影響を挙げる声も寄せられている。小売からは、「原油価格の高騰に伴う各商品の値上げにより、個人消費が低迷(柏・その他の小売業)」、「ガソリン価格の上昇など、消費意欲を低下させる要因が続き、売上の減少への影響を懸念(静岡・商店街)」、「サービスからは、「ガソリン・生活用品価格の上昇の影響により、来客数・売上が減少(大府・理容業)」、「忘年会、新年会の予約が減少するなど、厳しい状況(境港・食堂・レストラン)といったコメント」が寄せられている。

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
7月	▲32.8	▲43.5	▲26.3	▲42.6	▲31.4	▲30.8
8月	▲32.0	▲44.3	▲23.5	▲48.4	▲31.1	▲27.9
9月	▲33.6	▲45.4	▲27.5	▲41.1	▲33.8	▲29.1
10月	▲34.9	▲47.2	▲27.0	▲44.3	▲33.8	▲33.0
11月	▲36.1	▲46.8	▲29.2	▲45.6	▲36.0	▲32.6
12月	▲40.8	▲57.3	▲34.9	▲44.9	▲39.0	▲37.1
見通し	▲39.9	▲52.0	▲34.5	▲41.7	▲38.0	▲39.5

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI